

	遊びリパーク リノア	遊びリパーク リノア 秦野
住所	藤沢市辻堂西海岸2-10-3-1	秦野市菖蒲1105-3
TEL	0466-86-7120	0463-79-9961
FAX	0466-86-7121	0463-79-9962
開所日	月～金曜（祝祭日含む）、 土曜日（重症心身障がい児のみ）	月～金曜（祝祭日含む）
営業時間	10:30～17:30	11:00～18:00
サービス 提供時間	〈平日〉10:30～17:00 〈祝土〉10:30～15:30	〈平日〉14:30～17:00 〈祝日〉10:30～15:30
定員	20名/1日（主たる対象 重症心身 障がい児10名含む）	5名/1日
対象	肢体不自由児、医療ケアを要する 児童、重度心身障がい児	重度心身障がい児 （医療ケアを要する児童含む）
送迎範囲	藤沢市、茅ヶ崎市、鎌倉市の一部	秦野市

すべての子どもに遊び場を

あそびの体験を未来に繋げていこう！



遊びリパーク リノア

運営：NPO法人ラウレア

住所：〒251-0046 藤沢市辻堂西海岸 2-10-3-1

メール：info@laulea-linoa.com

FAX：0466-86-7121 / TEL：0466-86-7120



こ じぶん ぐだ まち
子どもが自分らしく育てる街ってどんなところ？

かぞく
家族がいて

とも
友だちがいて

たいせつ ひと
大切な人がいて

まも ひと
守りたい人がいて

しんらい ひと
信頼できる人がいて

あい ひと
愛する人がいて



ほか
その他にも

いっぱいいっぱい

いろいろな人がいて

そして

いろいろな幸せをいっぱい積み重ねていける

そんな街なんだと思う

まち いちぶ
そんな街の一部になるために

あそ
遊びリパーク リノアはスタートしました

ようこそ、リノアへ!!



おも リノアの想い

子どもにとって
遊びの体験は
成長に欠かせないものです

自由な遊びの体験から、自由な発想が生まれ
身体を動かす体験から、身体の動かし方を学び
他者との交流から、社会性を学んでいきます。

遊びとは、生きていく力を学んでいくことです。

その大切な機会が、障がいを理由に閉じられているのなら
その扉を一緒に開けていくことが私たちの役割です。

未来の“ワクワク扉”をリノアで一緒に開けていきましょう!

Q なんでリノアをつくったの？



リノアの想い

「この子にもいろいろなことを体験させてあげたいけど、参加しても良いか悩み…結局あきらめていたことがいっぱいあったんです。」
このお母さんの言葉の背景にはどんなことがあったのでしょうか？
私たちはその気持ちを汲み取ることからはじめました。

A

^{きみ}君が「やりたい!」と
^{おも}思ったことをチャレンジできるのが
リノアだよ!



リノアの想い

リノアは、ひとつひとつの体験を通して自信を積み重ね、子どもたちの「生きる力」を伸ばしていくことを目指す場所です。
みんなが「あなりたい」「こうなりたい」「こんなことしてみたい」。
その実現にむけて動き出せる遊び場にしていきます。

Q ^{とも} どんなお友だちがいるの？



?

?

?

リノアの想い

あるお母さんはこう言いました。
「障がいを知ってもらうことが必要だと思うけど、
この子がいろいろな人たちと知り合う機会が歳を重ねていけばいくほど
減っていくと聞いています…」
では、知り合う機会を増やしていくためには、どんな環境が必要でしょうか？

A

^{きみ} ^{がっこう} ^{とも} 君の学校の友だちや、
^{ほか} ^{がっこう} ^{とも} ^き 他の学校の友だちもたくさん来て、
^{あそ} ^{たの} いろいろな遊びを楽しんでいるよ！



リノアの想い

「共に生きる」につなげていくための交流機会をつくっていこう。
お互いが離れて過ごしていると相手のことが見えてきません。
人は見えない・わからないと無関心になりやすいけれど、
相手のことが見える・わかると優しさを向けることができます。
共に生きていくためには『お互いに関心を向け合う』ことが大切だと思うからこそ、
リノアでは障がいの有無を問わずに交流できる体験を大切にしたいのです。

Q みんなとちがうみたいなんだけど…
ボクも遊びあそにいってもいいのかな…?



リノアの想い

特別なケアが必要ということだけで通える場が
グッと少なくなる現状があります。

「自由に遊びたいのに」「あの子がいるあの場所に行きたいのに」、
そんな当たり前の希望が叶わない社会があります。

A

もちろんだよ！一緒いっしょに遊びあそぼう！
もし、困こまったことがあったら
教おしえてね！



リノアの想い

特別なケアが必要であっても、いろいろな場所で活動できることを目指して。
ケアができるスタッフがいる病院や施設、学校だけが子どもたちの居場所では
ありません。子どもたちが様々な場所で活動できるようになることをサポートして
いくことがリノアの役割です。

「君には友だちや仲間がいるんだよ」ということを知ってもらうことが第一歩です。

Q ^{ふあん}不安になったときは
どうしたらいいんだろう？



リノアの想い

「どんな場所？」「どんな人がいる？」
「どんなことができる？」「怖い人はいないかな…」
初めての場所は、いろいろな不安がおきやすいものです。

A

そんな時は、
いつだっておいでね
いつだって聞^きくからね



リノアの想い

リノアにはセラピストや保育士、看護師などの専門職が常時滞在していますが、
それだけでは子どもの心の安心材料にはなりません。
だからこそ、私たちはみんなの「声」や「想い」に対して「傾聴の姿勢」を持ち続け、
子どもにとっての「安全基地」でなければなりません。

あそ くうかん 遊びの空間づくり

遊びの空間づくりをするときのイメージは
「子どもはどんな遊びが好き？」から始まります。

障がいへの配慮をした居場所づくりも大切ですが、
子どもたちが目を輝かせる瞬間をより大切にして
遊び場をつくってきました。

また、安全な環境を整えることももちろん大切です。
そしてそれと同じくらい大切なのは、
子どもたち自身も「何が安全なのか」
「どうしたら安全に遊べるか」を考えることだと思います。

遊びを学びの機会に変えていく
これが私たちの“遊びの空間づくり”の考え方です。



リノアの遊びの空間づくり!

1

すべての子どもは

「〇〇したい」を持っている!

子どもにとっての遊びは、挑戦を積み重ねて心身の成長につながったり、新しい発見から好奇心が育まれたり、友だちとの関係性を構築し社会性を育てていく上で、とても大切な要素となります。

子どもがもつ“〇〇したい”こそがリノアが提供する遊び場づくりの基本となる概念です。



様々な子どもが遊べる場とは、

自分自身が遊び方を自分で選んでいける場所!

お互いを知り合うために!

遊びは成長に必要な要素であると同時に、お互いを知り合うキッカケとしての意味合いも含まれています。

初めて出会った時に生まれる「相手との心と身体の距離感」は誰でも持つものです。

その距離感が縮まらないうちから、「無理に友だち同士と一緒に遊ぼう」とはせず、一緒に遊ぶのはお互いの心の距離感がちかくなってからスタートしていきます。



2

「安心・安全」を学べる体験につながる遊び場を目指して!

「安心・安全」を学べる機会を大切に!

子どもの未来にむけての「安心・安全」とは、転倒させないことや怪我をさせないことだけでしょ

うか? それだけではなく、同時に「どうしたら転ばないか?」「転んでもどうしたら怪我をしにくいか?」「どんなところに気をつけたらよいのか?」などを、子ども自身が気づいていくことも大切な学びの機会につながるのではないでしょ

3



様々な子どもが遊べる場とは、自分自身が遊び方を自分で選んでいける場所!

お互いを知り合うために!

遊びは成長に必要な要素であると同時に、お互いを知り合うキッカケとしての意味合いも含まれています。

初めて出会った時に生まれる「相手との心と身体の距離感」は誰でも持つものです。

その距離感が縮まらないうちから、「無理に友だち同士と一緒に遊ぼう」とはせず、一緒に遊ぶのはお互いの心の距離感がちかくなってからスタートしていきます。

みんなが遊びやすいのも

大切だけど

チャレンジしたくなる

遊び場づくりを大切に!

障がい特性に合わせた遊び場の視点は必要ですが、特性への配慮をしつつも子ども自身の遊び場への「興味・関心」がどこにあるのでしょうか?

私たちは「子どものワクワクの先にある成長を目指して」という視点を忘れない遊び場づくりを心がけています。



4



登ったり、揺れたり、操縦したり、
見たり、聞いたり、触れてみたりを遊びの中に!

5

楽しい遊び方の正解はいつだって子どもがもっている!

リノアには多くの遊具が揃っています。

遊具の使い方は教科書通りである必要はなく、子どもが思いつくままに

遊ぶことをサポートしていきます。なぜなら私たちスタッフは、

子どもの自発的な遊びをサポートするのが役割だからです。

いっぱい動くのも
ゆっくり過ごすのも
どちらも大切な遊び!

6

ときにはクールダウンが必要なひとときも
あります。

そんな時には賑やかな場所から離れてみて、
静かな空間で過ごしてみましよう。

光の動きを楽しんだり、ゆったりとした音楽、
自然のにおいを感じてみたり…



地域にある遊び場も
存分に活かそう!

7

友だちと出かける体験を積み重ねよう!
子どもの言葉(想い)に耳を傾けてみると…

「あそこにも行ってみたい!」

「今度はあの子と行ってみたい!」

といった声がきっと聞こえてきます。

リノアの外にも子どもの好奇心をくすぐる
体験がたくさんあります。

友だちと出かける体験の積み重ねは、

みんなの世界が広がるキッカケに

きっとつながっていくでしょう。



大人だからこそ子ども以上に
めいっぱい遊ぼう!

子どもだけでなく、

大人もめいっぱい遊ぼう!

大人になると知識を得るための「学び」には
力を入れますが、遊びの知識を得るための

「遊び」はおろそかにしがち。

子どもの遊び場をつくっていく上で欠かせない

ことは、「大人になっても楽しい遊びは

いっぱいあるよ」ってサインを子どもに送り

続けることかもしれませんね。



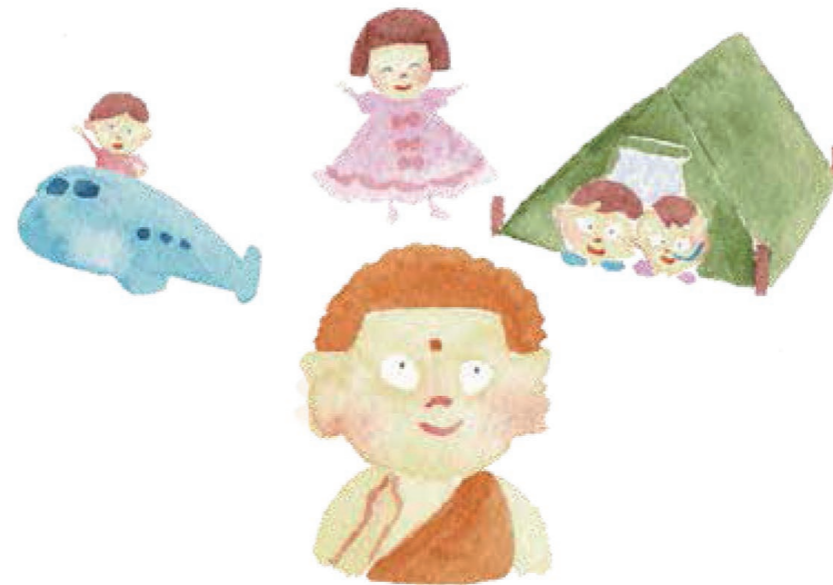
8

— リノア 10 の指針 —

「社会の中でよりよく生きられるために、
さまざまな体験を積み重ねていく」

を目的にリノアでは以下の指針をつくりました。

- 1 みんなの「やりたい!」を引き出そう
- 2 成長スピードはさまざま。常に「待つ姿勢」を持ち続けよう
- 3 子ども同士の遊びの空間をつくり出そう
- 4 体験を求めて外に飛び出そう
- 5 障がいがあってもなくてもリノア児童として受け入れよう
- 6 地域交流を通してお互いが知り合う機会をつくろう
- 7 子どものお手本としての行動をしよう
- 8 独自の判断はせず、チームで判断して行動しよう
- 9 共に働く仲間を大切にしていこう
- 10 自分と家族も大切にしよう



リノアの指針

1

みんなの
「やりたい!」
を引き出そう

みんなの「やりたい!」はいろいろなところに転がっている。
その興味関心が向かう先をみんなで一緒に探し、
実現していくことが、私たちの役割。

リノアの指針

2

成長スピードはさまざま
常に「待つ姿勢」を
持ち続けよう



子どもの数だけペースがあります。
何でもサポートしてあげることが私たちの役割ではありません。
準備や移動に時間がかかっても、自らの力で「できるんだ!」
という楽しみを感じてもらうことが私たちの役割。

バリアの指針

3

子ども同士の
遊びの空間を
つくり出そう



みんなに同じ遊びを強制するのではなく、
子どもの数だけある遊び方を尊重しましょう。
大切なのは、同じ空間を共有し、お互いが知り合うキッカケをつくっていくこと。
環境や関わりを通してそのキッカケをつくっていくのが、私たちの役割。

バリアの指針

5

障がいがあっても
なくてもバリア児童として
受け入れよう



共に生きる土台づくりがここにある。
未来を共に生きるのは、同世代の子どもたち。
この世代がお互いを知り合っていくことで、未来の「共生社会」に必要な土台となるならば、そのために必要な機会や出会いをつくり続けることが、私たちの役割。

バリアの指針

4

体験を求めて
外に飛び出そう



初めてを乗り越えてこそ、
「次はあれをやってみたい！」につながっていきます。
それらの積み重ねを通して「選択」「決定」そして「責任」を学んでいくことを
サポートすることが私たちの役割。
また、世の中すべてがバリアフリーではないからこそ、受け入れる側にも何かを感じ、
学ぶ機会につなげていくことも、私たちのもう一つの役割。

バリアの指針

6

地域交流を通して
お互いが知り合う
機会をつくろう



知り合うことで地域は優しくなれる。
そのために、私たちは人と人との出会いを大切にし、
お互いのことを知り合う機会を持ちあい、そこでの出会いをキッカケに
子どもたちの世界を広げていくことが、私たちの役割。

リノアの指針

7

子どもの
お手本としての
行動をしよう



子どもたちは大人の行動をよく見えています。
だからこそ、私たち大人は良きお手本となる必要があるのです。
挨拶から始まる関係構築が大切と伝えるなら、私たち大人も挨拶からうまれる
関係性を築いていることを子どもたちに見せていかなければなりません。

リノアの指針

9

共に働く仲間を
大切にしていこう



子どものことを大切に想う気持ちは大切です。
それと同じように共に働く仲間にも目を向けてみましょう。
リノアのスタッフは専門職からそうでない方、シングルマザー、自身も障がいや難病を
抱えている方や、障がいのあるお子さんを育てながら働いている方などさまざまです。
違いを認め、受け入れ、助け合うことが働きやすさにもつながり、
そういった姿勢が、子どもたちにとっての良いお手本にもなると思うから。

リノアの指針

8

独自の判断はせず
チームで判断して
行動しよう



考え方の違いや個人の想いをお互いに尊重していくことは大切。
だからこそ、まずはあなたの考えや想いをチーム内で
共有するところから始めていきましょう。

リノアの指針

10

自分と家族も
大切にしよう



自分自身や家族にこそ目を向けることを忘れないようにしましょう。
なぜなら、今の私たちがあるのは、身近な方のサポートがあるからです。

この子たちの未来が
笑顔あふれる社会であるために



あしがき

リノアの設立からこれまでに、
さまざまな体験を子どもたちと一緒にしてきました。
しかし、ここまでの道りは決して平坦ではなく、色々な問題や考え方の違いなどにより、実現に時間がかかったり、実現できなかったこともいくつかありました。
それでも、子どもたちに一つでも多くの「経験」を積み重ねられるように、何を大切に、どうすれば実現できるかを一歩ずつ進めてきました。

設立当初4名のスタッフでスタートしたリノアですが、今では40名を超えるスタッフが活動してくれるようになりました。
しかし、スタッフが増えた今、改めてリノアの目的や方向性の共有が欠かせないことを実感しております。

今回この絵本を書かせていただいたのは、子どもたちや親御さんへリノアの取り組みを知っていただくと同時に、私たちリノアスタッフとしてのあり方を、日々振り返るためという意図もありました。

最後に、
今、社会が掲げている「共生社会」という概念を、次世代には当たり前感覚としてつなげていくことが、私たちが次世代へ残すべき「共に暮らしたい」と思い合える社会だと思います。

そこに向けて動いていくことが私たちのミッションであり、そのミッションは時代と共に変化していきます。
その変化を、これからも子どもたちや親御さんたちと一緒に考えて動いていきたいと思っています。

リノア 横川敬久